

令和3年度決算 宮崎市一般会計等財務書類のポイント

《令和3年度決算の特徴》

- ◆固定資産、流動資産が増えたため資産合計は約146億円増加し、約5,392億円となりました。(貸借対照表より)
- ◆R2年度の特例定額給付金支給事業等の完了により、市民一人当たりの行政コストは51千円減少し、424千円となりました。(行政コスト計算書より)
- ◆年度末資金残高は約48億円増加し、約109億円が確保されていることから健全性が確保されています。(資金収支計算書より)

◎貸借対照表

会計年度末時点(出納整理期間中の増減を含む)における市の資産・負債等の状況を明らかにします。

科目名				科目名			
令和3年度	令和2年度	差額	令和3年度	令和2年度	差額	単位:百万円	
資産の部			負債の部				
固定資産	513,213	505,827	7,386	固定負債	175,454	178,118	△ 2,663
有形固定資産	454,197	451,731	2,467	地方債	159,658	162,444	△ 2,786
事業用資産	224,722	220,178	4,543	流動負債	20,123	20,179	△ 56
インフラ資産	227,741	229,838	△ 2,097	1年内償還予定地方債	17,012	17,082	△ 70
投資その他の資産	58,610	53,567	5,044	負債合計	195,577	198,297	△ 2,719
投資及び出資金	33,094	31,526	1,569	純資産の部			
基金	23,848	20,210	3,638	固定資産等形成分	526,267	516,429	9,838
流動資産	25,995	18,748	7,247	余剰分(不足分)	△ 182,636	△ 190,151	7,514
現金預金	12,379	7,544	4,836	純資産合計	343,631	326,279	17,352
基金	13,046	10,593	2,453	負債及び純資産合計	539,208	524,575	14,633
資産合計	539,208	524,575	14,633				

令和3年度末における資産合計は約5,392億円、対して負債合計は約1,956億円(36.3%)、純資産合計は約3,436億円(63.7%)となりました。昨年度と比較すると、宮崎県環境整備公社の解散に伴うエコグリーンみやぎの受け入れなどにより固定資産が増えたことや、市税、地方交付税、寄付金などの増により基金、現金預金が増えたため、資産合計は約146億円増加しました。負債及び純資産合計は、負債が普通建設事業費の減によって地方債発行額が減り、約27億円の減少しましたが、純資産が約174億円増えたことにより約146億円増加となりました。

《参考指標》

(1)資産老朽化比率

【減価償却累計額÷(有形固定資産-土地等の非償却資産+減価償却累計額)】
62.5%(0.1ポイント改善) [R02決算:62.6%]

(2)市民一人当たり負債額【負債合計 ÷ 住民基本台帳人口】

488千円/人(5千円減少) [R02決算:493千円/人]

(3)将来世代負担比率

【地方債残高(臨時財政対策債等は除く) ÷ 有形・無形固定資産】
24.0%(1.1ポイント改善) [R02決算:25.1%]

住基人口(594人減少)
400,918人(令和4年1月1日)
402,038人(令和3年1月1日)

(4)市民一人当たりの行政コスト【純行政コスト ÷ 住民基本台帳人口】

424千円/人(51千円減少) [R02決算:475千円/人]

(5)受益者負担の割合【経常収益 ÷ 経常費用】

4.7%(1.1%増加) [R02決算:3.6%]

◎資金収支計算書

民間のキャッシュフロー計算書に相当。

現金収支を「業務活動収支」、「投資活動収支」及び「財務活動収支」の3つの区分に分けて表示したものです。

科目名				科目名			
令和3年度	令和2年度	差額	令和3年度	令和2年度	差額	単位:百万円	
【業務活動収支】			【投資活動収支】				
業務活動収支	23,552	13,935	9,616	投資活動収支	△ 15,530	△ 12,090	△ 3,440
【財務活動収支】			【純資産変動】				
財務活動収支	△ 3,209	867	△ 4,076	固定資産等の変動(内部変動)	△ 7	0	△ 8
本年度資金収支額	4,813	2,712	2,101	資産評価差額	6,818	545	6,272
前年度末資金残高	6,131	3,419	2,712	無償所管換等	△ 7	△ 8	1
本年度末資金残高	10,944	6,131	4,813	本年度純資産変動額	17,352	2,927	14,425
前年度末歳計外現金残高	1,413	1,363	50	本年度末純資産残高	343,631	326,279	17,352
本年度歳計外現金増減額	22	50	△ 28				
本年度末歳計外現金残高	1,435	1,413	22				
本年度末現金預金残高	12,379	7,544	4,836				

令和3年度の資金収支は、昨年度と比較すると業務活動収支が約96億円の増、投資活動収支が約34億円の減、財務活動収支が約41億円の減となりました。

この状況は、業務活動から得た収入で公共施設の整備や基金の積立て等の資産形成が活発に行われた状況を表しています。

また、財務活動収支がマイナスであることは、地方債の償還が進んでいることを表しています。

本年度資金収支額が約48億円増加し、約109億円の資金が確保されていることから健全な財政状況であると考えられます。

◎行政コスト計算書

民間の損益計算書に相当。当該会計年度中の行政活動のうち、資産形成以外に使われた費用(コスト)と、その費用の一部として充てられた使用料や手数料などの関係を表します。

科目名				科目名			
令和3年度	令和2年度	差額	令和3年度	令和2年度	差額	単位:百万円	
経常費用	151,111	146,307	4,803	経常収益	7,068	5,334	1,733
業務費用	64,278	62,196	2,082	使用料及び手数料	3,934	3,858	77
人件費	21,859	21,211	648	純経常行政コスト	144,043	140,973	3,070
物件費等	41,537	39,937	1,600	臨時損失	26,079	50,332	△ 24,253
減価償却費	14,368	13,998	369	臨時利益	240	213	27
移転費用	86,833	84,111	2,721	純行政コスト	169,882	191,092	△ 21,211
補助金等	34,603	33,446	1,157				
社会保障給付	39,349	38,425	924				
経常費用は約48億円増加の約1,511億円、経常収益は約17億円増加し約71億円、純経常行政コストは約30億円増加し、約1,440億円となりました。臨時損失はR2年度の特例定額給付金支給事業等の完了により、約243億円減の約261億円となりました。これに臨時利益を加えた純行政コストは約1,698億円となり、約212億円の減少となりました。							

◎純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部の変動状況を示したものです。純資産の増減要因を明らかにします。

科目名				科目名			
令和3年度	令和2年度	差額	令和3年度	令和2年度	差額	単位:百万円	
前年度末純資産残高	326,279	323,351	2,927	前年度末純資産残高	326,279	323,351	2,927
純行政コスト(△)	△ 169,882	△ 191,092	21,211	本年度末純資産残高	343,631	326,279	17,352
財源	180,431	193,482	△ 13,051				
税収等	97,001	89,657	7,345				
国県等補助金	83,429	103,825	△ 20,396				
本年度差額	10,549	2,389	8,160				
固定資産等の変動(内部変動)							
資産評価差額	△ 7	0	△ 8				
無償所管換等	6,818	545	6,272				
その他	△ 7	△ 8	1				
本年度純資産変動額	17,352	2,927	14,425				
本年度末純資産残高	343,631	326,279	17,352				

令和3年度は約1,699億円の純行政コストを税収や国県等補助金等の財源でまかない約105億円が残りました。これに無償所管換等の増減を加えた本年度末純資産残高は約3,436億円となり、前年度末に比べ純資産残高は約174億円増加しました。